



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2022年3月13日(日) 9:30~12:00(薄曇り)

参加者 一般:8名(中卒2名)

指導員:6名

## テーマ 春の気配を探そう

今回は昨年講習を受けて指導員となった新会員のほか2名が初めて来られ、久々に14名の参加となりました。

「春の気配」がテーマということで、この時期の花の梅と桜の花を観察しました。桜といえばソメイヨシノが代表的ですが、開花まであと10日程かかるでしょうから、代わりにシキザクラです。梅も桜もともにバラ科に属し、葉が出る前に花を咲かすので、遠目にはよく似ていますが、近くで花を比べると違いが分かります。梅は枝に密着したように花が付き、花弁の先端は丸い形状なのに対し、桜は花柄が長く、花弁の先端が凹んでいます。

今季はいろいろな花の開花が遅れているようです。昨年の観察会で開いていたハクモクレン、コブシ、アメリカハナノキなどはまだ蕾でした。それでも、ミヤマウグイスカグラは開いている花の数が増え、日の光に輝くネコヤナギの花穂からは春らしい雰囲気を感じられました。

もう一つ、春先に動きだす蝶に注目して回りました。10時過ぎに気温が上がってくるとキタキチョウ、キタテハ、テングチョウが飛び、ムラサキシジミが翅を開いて日光浴をしていました。これらはいずれも成虫で越冬する蝶ですが、この春に羽化したモンシロチョウやベニシジミの姿も見られました。

鳥ではツグミ、ジョウビタキ、シメといった冬の鳥が残っていますが、春らしいウグイスの「ホー、ホケキョ」という囀りも随所で聞かれました。上空を舞う数羽のトビに混じってチョウゲンボウが飛んでいました。双眼鏡で確認すると体形や飛び方がトビとは違っていることが分かります。

圧巻は終わりがけに見たオオタカです。「もくもくパラダイス」のエノキの枝にじっと止まっていたので、近くまで寄ってじっくり観察でき、ラッキーでした。(報告:齋竹)



(ミヤマウグイスカグラの花を観察)

### <その他観察できたもの>

鳥:ホオジロ、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、メジロ、ヒヨドリ、カワラヒワ、イカル、シロハラ、アオジ、スズメ、ムクドリ、キジバト、アオサギ、カワウ、キジ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、

虫:セイヨウミツバチ

花:オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ニホンタンポポ、シロバナタンポポ、トサミズキ、ヒュウガミズキ、サンシュユ、ヤブツバキ



花弁の先が丸いウメ



光に輝くネコヤナギの花穂



ムラサキシジミの日光浴



じっくり見られたオオタカ